

414
A2726
1

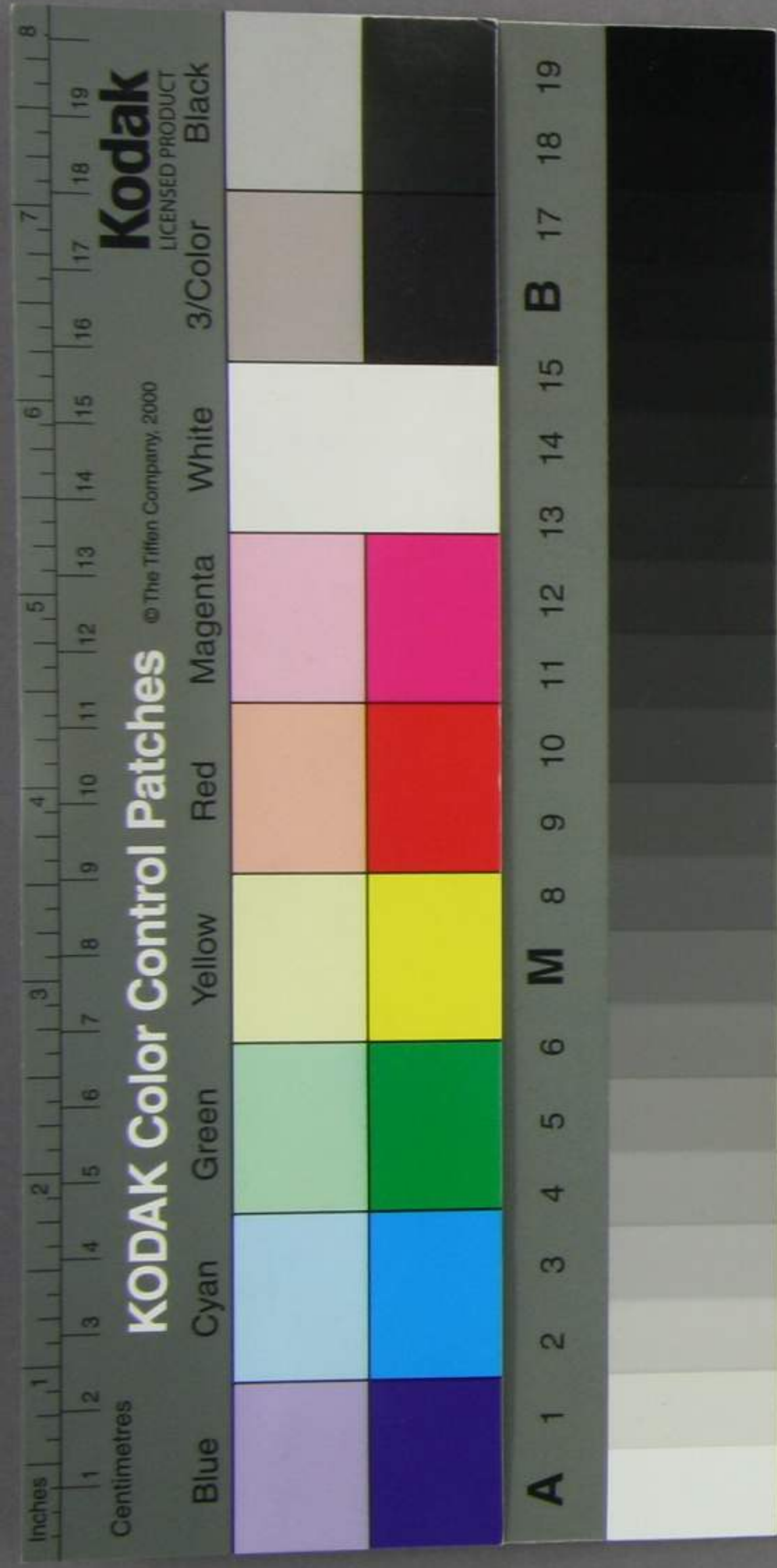


京都裁判所於テ小野善助送籍之儀
裁判ニ及ヒ京都府知事之ヲ拒ミタルニ付
北畠少判事ヨリ情状具上ニ又澄川檢事
ヨリ上陳スル所アリテ本省ニ於テ其事件ヲ議
論シ決裁ヲ仰キタル手續別紙通而度候
當時ニ等出仕以上ノ上司ニ在テ議定スルハ
勇一己ノ辨ス可キ非ス勇其時ニ當テ間々與
聞シ一己ノ持論アリタレハ今日曾記スル所ヲ言

司去首

大正十一年四月
大隈侯爵邸守贈

1735



上凡ソ罪ヲ科スル成律ニ據ル勿論ナレバ
一々正條ニ的例ナキモノモ論ヲ待タズ又之ヲ科
スル順序ヲ經成規ニ據ル可カラス素ヨリ
罪案ハ口供或ハ口書ヨリ蹤跡ヲ徵スルモノニシテ
其恐入ル等ヲ待ツ者ニ非ス之ヲ以テ直ニ罪ヲ
科ス然ルニ成規中ニ其活用ヲ主トスルノ証呵
責放免等ハ答以下ニシテ罪ノ部分ニ在レバ
要スルニ無科ニ類似スル者ニテ輕微ノ者ナリ
然レバ其口供結案ヲ待ツ違式ハ答二十ヨリ干

ニ止ル呵責ニ比スルハ稍重キ者ナリ然レバ必スモ
口供結案ヲ待サル者アリ之ニ成規中ノ活用ニ
テ裁判官ノ權衡ヲ執ル所也凡ソ違式ハ新
律中ニ正條ナク司法警官保寮ヲ閱轄ニ始
正條トナリタルカ如シ抑違式ハ各地方ノ規則ニ
違戻スルヲ主トシ或ハ官ノ請局ノ式ニ違フ者
之ニ權衡ヲ採ル故ニ各地方ニテ其式ヲ知ルト
知ラサルヲ問ハス違式ハ罪ヲ科スル勅奏任官
ト虫モ奏聞ヲ經ス平民タリモ口供結案ヲ採

ルナリ罰文ヲ用ヒス直ニ罪ヲ科ス裁判所ニテ
裁判ノ受書ヲ取リ眼セサレハ控告セシム之裁
判所ノ式ナリ京都府知參事此式ニ違フ故
ニ違式ノ罪ニ科シテ推衡誤ラレル者ノ如ク然レ
氏直ニ敬言保寮取扱ノ處分ニ僣難ニ故特
奏請スル議ヲ發セリ勇當時一己ノ身意
ニ小野善助送籍等ニ付京都府ト裁判所
トノ事情天下ノ人喋々之ヲ談ス政体ノ美ト
謂可カラズ違式ノ罪ヲ科ス百餘里ノ遠途ヲ

踰テ勅發官ヲ呼出ス穩當ト謂又各人民
裁判ヲ受式ニ依ラス趣意ヲ解シ難キヲ
以テ裁判官ニ抗スルイアレハ其多事言ヲ待ハ
京都知參事徒ラニ我意ヲ張リ推問公ニ
同様手續タル一顯然タリ且推衡ヲ採モ
比例ス可キノ成規アレハ京都府知參事ト
北畠判事トノ數回往復書面ハ其手續
不明ニシテ口供ニ勝ル一罪案タリ之成規中
ノ活用ニシテ更ニ政府ノ裁判ヲ請フ所以也

然レ此是勇當時一己ノ身意討論ニル
所ラ陳シ今日閣下ニ上スルモ也閣下宜ク
當時ノ情勢諒察アラニテヲ希望致シ
候也

明治六年十月八日 早川勇再拜

大木司法御閣下

大正十一年四月
隈侯爵寄贈

414
A 2726
2

別紙 手續書

小野善助等轉籍之訴以本年六
月十日付於本郡裁判所及裁判所
被控人等知悉事 其請書ヲモ
差出共亦控告ヲモ為共喋々論ラ枝
蔓カ張リ控告ノ數自ラ遷ニ付
長北白田少判事ノ事情逐一本
省ニ致具陳當同所存勤故澄川権中
他ノ事ヲ致出及建白於付當時ノ

司法省

儀福須序左之通、此生候

七月七日澄川換事本有、出頭左、何、

口陳ハ

一多府知事、裁判所、式、通、

現行犯罪タルヲ免カス而シテ、如、白、判、事

疾ク、其事、ヲ、具、陳、ス、何、ハ、速、ニ、處、分、ナ、リ、

一判事一旦裁判ヲ為シ、其實効、ノ、便、年、ニ、

ト、各人民、ヨリ、其、責、ヲ、免、カ、ス、ハ、法、ハ、權、

何、ラ、以、テ、立、ン、彼、知、事、事、速、ニ、罰、セ、サ、レ、カ、ラ、ス

一平民ニシテ是式ニ通ラハ、ハ、其、福、ハ、何、時、其、

其罪ヲ處ス可シ然レ、ハ、初、奏、任、官、タル、

以テ一應奏請、上、聯、時、モ、至、多、ク、處、分、

有之候事)

此日楠田三等出仕ハ、ハ、初、等、ノ、ノ、榊山富本

両出仕渡辺大等丹羽少等、ハ、若、等、等、列、

席之ヲ、ハ、左、ノ、條、々、ヲ、討議、ハ、同、彼、知、事、

事、ハ、以、テ、其、お、ウ、拒、ル、意、ナ、リ、控告ス、ハ、

意ナリ

只谷口等出仕るに依りて件に熟察し
リシヤ否哉判中渡書面の上より了解し
難キ故に其趣を言う聞かぬに決るにト云
待罪セスとのめり

答北富判事一知天多事トは往後書中
ニテ其意を歴々ト知ルべし判事法に依ラ
審判シヨト其趣を言う解シ難キト云
式に依ラス若人民ニ在テ一々如此抗問シ
判事答辨ヲ煩サハ一事毎日毎月ヲ

費セシ其又體論ヲ待ハ

向勅類官ニ非スシテ裁判所ニ式ニ違フ
ル程同紀彈等ヲ用ヒス直ニ罷處シテ可
ナルヤ

答呼出し、日ヲ待テ違ハ成ハ病ト伴テ不
出又ハ裁判官ニ對シテ傲慢無禮ト其
外種ト現行犯罪違式ハ其状ニヨリ
検部違新ヲ以テ逮捕シ判事即今之ヲ
四討ハ是違式ハ新律外一種ノ罰法

首從ヲ分タス必スシモ情ヲ不_レ紀モ_レナシム也
右討論中別紙シ即_レ通_レ不_レ取_レ書
面ス_レテ御用可仕_レ方_ニテ草案成_レシリ
又討論了_リテ未_レ文朱書_レ通_レリ認_レ務
追_レ的_レ律_ニ以_テ伺_レキ_ニ之_マリ即_レ御用
ニ及_レタリ勇_ニ其書ヲ携_テ昇_レ院_ニ具_ニ
其狀ヲ以_テ陳_レ連_レ處_ニ合_セテ事_ヲ伺_レル
可_レキ方_ニ島本三_ニ等出仕ヨリ命_セラ_レタ_レ氏
會_ニ渡_レ島大_ニ等也_ノ公事_ヲ以_テ昇_レ院_ニ

言_レ法_ニ奉_レ

以_テ同_レ人_ニ之_ヲ携_テ爲_レミ_タリ

同日澄川候事出頭同月三日付兵庫
ニ於_テ認_レ置_レ之_別紙甲印_ニ連_レ白_レ書_ヲ最
出_テ福_ニ國大_ニ補_ニ楠_ニ田_ニ様_ニ山_ニ島_ニ本_ニ三_ニ
等出仕渡_レ島大_ニ等_ニ勇_ニ澄_ニ川_ニ候_ニ事_ニ
共_ニ猶_レ昨_レ日_ニ議_ヲ更_ニ反_ニ西_ニ復_ニ討_レ論_ヲ
其議各異同在_レ如_レシ
一_ニ控_レ告_ノ方法_一般_ノ人_ニ民_ニ布_告セ_ラル_ニハ_レ裁
判_ニ已_レ後_ノ一_ニナ_ラサ_レヒ_レ已_ニ准_レ判_レ規_レ程_ニハ_レ裁

司_レ法_ニ首_ニ

都省ノ裁判ヲ請フ者云々トアリ又事云
 七月十四日大政官所布告云云今般
 辨官被廢於二付テ諸願何屬
 從テ其關係ノ諸官有ハ直ニ可
 上アリ又本省事 第四十六号布達
 面ニ數条アリ 況北畠判事ヨリ彼
 知參事ニ與ニ書ニ控告ス可ラ表示アリ
 一彼知參事一ヤ明ニ現行犯罪ナリ其
 事状裁事已後淫漫書面ニ於テ詳

悉セリ以テ罪案ト為スルハ 山登別ニ口
 供ヲ待ニ
 一此裁事ヤ固ヨリ判事ノ臆測ニ及スル
 公布ノ法則ニ基ケリ之ヲ非トメ 臆セザル者
 一罪違令ヲ科シテ可ナリ
 一彼知參事 他ニ權知ヲ侵ルル非
 アリ先之ヨリ審判ニ決シテ可ナリ
 一罪違式ヨリ上ラス 然ルヲ知差任官ヲ
 百餘里ノ路程ヲ呼出し其罪ヲ科ス

至當トス且推問弘彈ヲ必スセサルモ
式罰法アリ之ニ權衡ヲ採リ奏請シテ
可ナリ

一要スルニ罪ヲ科スルノ大體一ニ推問弘
彈スルニアリ直ニ律ヲ擬シ難シ

一知免ノ事判事トシテ甚重書為胸ヲ案
スルニ彼只依テトシテ了解シ難キニ
主張ス以訴答板外ノ事ナリ而シテ依
然タル顯然何リ推問弘ヲ用ヒシ

右ノ如ク議端切々トシテ一級ヲ歸セザル
テ本日更ニ内印、通り何書中特ニ刑
名ヲ舉ケ又推問セリテ陳シ西岐ヲ
表シテ進達ニ及ヒタリ

情ニ甚ヘカ子

親ラ其意見ヲ上陳致シ度者ニテ常同
伴致昇院於處本日ハ内閣官ニ面
會ラ不旨ニ付其言ヲ盡ス能ハス

十日勇再昇院史官、面會其決裁

東ナラニ事ヲ後セリ

十二日勇又昇院三條大臣殿及然下其
他前、冬儀板垣江藤西公等、同御
列席、面前に於テ一切、書面ヲ持テ
前日上清ノ顛末ヲ口陳イテ、述式ハ
判然トシ、之ニ依リ更ニ的律ヲ伺出ツ
ルカ又ハ為ル伺出タル如ク推問スヘキヤ
儀決テ請フ會ニ福至大輔モ亦也ノ公

事ヲ以テ昇院被致於ニ付同官ナリモ

在右東ニ御指合ニ相成ル様更ニ

白ラレシ處乃チ澄川様事、建言ニヨリ

適律處斷、可伺出古御口聲ナリ

ニ付其處言フ先當トシ、翌十三日右適律

在調伺ニ出テ、日ニ至リ上清ノ角ニ御來

書スル御裁下ニ於テ、則者式殿ノ

ニテ罪ヲ科シ、然ルキ、御指合ハ口陳ニテ

御口聲ノ御指合ニテ、澄川様事、建

言ヨリ箇律違式申、檢衡ヲ以テ
可ラ得下兩版之義ニ由生候

甲

京都府管下小聖善助外二人送籍一
件之訴狀付京都裁判所同府知事
裁判申渡書ヲ相違於來同府知事
差出上告ヲモ不致迄ラニ曠日延久ニ段
而却合ニ延申ニ有ニ趣同所出法檢子馬
ヨリ申紙取見右一件書款熟檢於所
裁判申渡タニ六月十五日之事ニ有ニ以
後訴答書面外ニ議論押稿ニ致

生後及七歳未也富がわすの枝葉を種
種は始り置らざるは裁制に付る後
アラ上告式を因テ執計し可然との他
ト申切り取事六月廿三日の事有る
而約府於為依法律書ヲモ不差出上告
ヲモ為せる取実なるは決り有る凡ソ
聴取法に於ケル其裁制ヲ受クルモハ
書ヲ出し若し兼律セサルノ論ハ不其
ヲ以テ上告スルノ方ヲ申出ル式是ノ
二ツ出

ナレ合テヤ取都府否ラス此ニツ法
違式之罪是より然タルナレ
罪一日モ速ニ四言セザルヲ得
告者於ニ裁判ヲ受クル後十
ト虫モ実知ラ得ルニ能ハス
画餅ニ似タリ其権果ニテ馬
ハ是其実効ヲ得カレトナ
其權利妨テ受クルハ不裁
是式ニ違フヨリト一方ノ
損害ハ少シ

司法、法裁判の権を得て立つ可キノ道
 ナカラントス是レ一日モ速ニ四言セザルハル可ク凡所
 以也然レ平民ハシテ是レ事ノアラニ乎急
 痛即日其罪ヲ変シテ可ナリト云モ但是
 レ知テ事ヲ執奏官先ラ以テ奏請ヲ經
 スニハル可クハル而已因テ此処奉言上於条
 早速ヲ執
 奏可法以変分多クテ於程後後也
 京都出物臨時西田

明治六年七月言
 司法省中務少輔
 西田

福司司法大輔殿

乙

遇此言渡區裁判所并系部府支廳
 事所云々之曰曰府下之聖善則外之人
 送之程願之義付系部裁判所訴
 出審理之之裁判所違於交於府廳於拒
 於按安之為於付其分而此之上而處分
 於成後方回裁判所々長少和事心高
 於府より申出於付並而相伺及通於當
 省其方取紀裁判所及後方申進置猶

司法省

司法省

進書面以
相伺可申此段
申進置在也

又右事件之實際今般回所日申越
之及不調之實者亦都裁判
其之言渡之通系都府於之善助送籍
取扱可申之實其儀之萬一回府於之
右言渡之不被之常其方之控告之裁判
之受可申之實是其儀之右之同府
於之同裁判之有之言後之然相托於之付
回府之右之托之罪之至之重之重之致
之事之保之勅奏之海之身之加之殿之同

別有
律
五
刑
之
任
證

抄也

明治六年七月七日

大補

大政大臣殿

司去首

東都裁制所移三回府也野善助
 送籍一併裁判言渡月回裁制所
 相違於越三回府廳於三拒於保信
 昨中進多於交於三回裁制所子甲
 越三波第五三三強相括於三拒於保信
 仍而通律取調於交通之各通之相當
 其以共回府官負之各檢向之三犯跡
 確定可後於交軍柄制矣官三涉り

司去首

司去首

414
A 2725
3

此付此故相回復也

明治六年七月廿日 司法大輔福島孝典

三條大政大臣啓

大正十一年四月
隈儀齋郵寄贈

京都府知參事同所裁判官ノ審判ニ不
服終拒刑ノ件ニ立至リ候ニ付此般臨時裁
判所被爲開私共參事並仰付裁事ノ公止
ヲ證スヘク旨ノ御規見北仰出既ニ有テ職掌
以心得振相何モ其處原來人民トシテ政府ハ
不存當ニ裁務有テ度刑等ノ御申渡
相成在六島御請申之旨信事ヨリ裁務
ノ所盡ニシテ苟モ事有テ其罪輕
免且待罪出ヲ要セスノ處刑相成其政府

之特権ニ有リトノ旨ニ有之ル後裁判之
爲シテ系望右拒刑ノ旨趣及礼向ニ有
系事植村正直ニ於テハ初ノ裁断ニ
不服ヲ弁其情状ハ正院ヘシ陳述ス指
令ニ之ニ卒然テ刑ニ仰付テ有之ル旨
且改定律令断罷不常條例三百十條
凡罪ヲ断スル口供結案ニ依ル者ニ甘
セシメテ死シタル者神位アリト雖モ其旨
論セストノ律文モ有之兼テ常初裁断
之係正院ニシテ陳述有之尚又旨指
揮

相伺旨指令相成ルマテ旨請遷延ル者
譯ニテ全テ拒刑ニ志スル旨趣申立
ル旨退テ審問仕ル者植村正直ノ根拠ト
シテ陳述スル處ハ又三百十條ノ律文
ニテリ若シ其律文ヲ根拠トスル者ヲ以テ
理ノ取ルヘキアリトセハ處刑ヲ不受ル旨
シテ陳スルヲ以テ俄カニ之ヲ拒刑ニ擬シ難
然レ共待罪書ニ據ラスル旨之ヲ受ル旨
改テ府ノ特権トシテ決断スル旨拒刑ノ罪
論ヲ不待ル旨及官民一般旨

スヘキ律文トハ決然テ矛盾有リ拒刑ノ罪名
ニ違ルニ至リテ條理ノ可標者無之然ト
存ル凡人民ノ世ニ立ツ意ニ寄セサルコトハ
義務アリ屈抑スヘカラサルノ權理アリ以テ
命令ニ服従スルハ固ヨリ人民ノ義務ニ非
レ其当人罪ノ有リ心ハ口ニ供結案
ヲ要セズ率然之ニ加ルニ罪名ヲ以テスルハ
非常ノ際ニ當テハ罪ニ處セラルル者罪ヲ
受ケ難キ存リテ訴ヘ其無辜ト告テ
刑罰ニ免カレテ裁判ノ當否ヲ詳審シ後

罪ニ服セント乞フ者恐クハ俄ニ之ヲ拒刑ニ
擬シ難キカ又所謂屈抑スヘカラサル人民
ノ權理内ニ在ツテ訴スヘキ義ニ有之ル
爰却抑人民政府ニ對スルノ義務ニ非
テ受ケザルコトヲサシムル者トセハ喻ヘハ兄ナクシテ
嫂ヲ慕フ父母ナクシテ不孝ノ罪ヲ負ハシムル
ニ其者ヲ以テ彈ケス所謂口供結案ヲ要
セシテ率然其刑ニ處スル誰カ敢テ冤
ヲ訴ヘサラン者之トテ處スルヲ政府ノ特權
ト云ヒ律明文ニ依ラス之ヲ受クルヲ人民ノ

我務トシ寛ヲ祈ルヲ好サラシメハ人民ノ権
理何ヲ以テ伸ルヲ好シク恐クハ文明ノ政治
ニ於テ之レアルヘカラス勿論今般義成ル
喩ノ如ク甚ク其意様ニハ多ク之ヲ好共維新
ノ事ヲ駁トシテ公明ノ大ノ政治ニ趨キ
人民ノ権理ヲ十分御保護スル在ルハ日
ニ當ツテ一夫モ寛ヲ好シテ怨ヲ爲スル
人民ノ権理ヲ壓抑セシムル如キハ其
者之ノ名ヲ官民一級道守スルキ國律
ト一府政府特權トノ程重ク對テ祈

決其情状ヲ御明ニ其裁案ノ御理ヲ
祈ル如キハ之ヲ祈シ人民ノ権理ヲ伸
レ其情状ノ多クハ裁案ノ公正ヲ祈シ其情
難相立其本ト在ルハ尚又其日受テ
後ト雖モ當初民法ノ裁案ニ付テハ更
ニ控るるヲ經テ控告ヲ好ルノ法外モ有
之在ニ在ル共其身既ニ懲役ノ刑ノ受
セラル、如キハ人民権理ノ一部ヲ剝奪
控告ノ法ニ依リテ祈スル程ハ容易ナ
ラス寛ヲ好シテ怨ヲ爲シ役ヲ終ルニ至ラシ

久人民権理ヲ屈抑スル亦甚シキナラスヤ
彼試糸考仕ルニハ般ノ裁出並ラ相
同及之者ニ依リテトキハ最早拒刑免
出仕仕ル能ハ其拒刑ノ旨趣ヲ知
スルニ方テ當初裁出ノ旨趣ヲ具陳
シ口供結果ニ依ラサルノ律ヲ以テ刑ノ受
ケカキキテ祈ルニ至リ候モ人民政府ニ對スル
ノ義務ニ於テ直ニ拒刑ニ據スヘキ者ト
セハ律文ト矛盾仕ル特權ノ重キ律
文ノ重キ律文ニ對テハ公ニ疑

スル於テ疑惑仕ルハ特子ノ脚證
ヲ以テ時裁出於テ當初裁出
當否否好ノ如末ホ寫ト以審出
之ヲ款又ハ日款ニ於テ右脚裁出
お成法見ルハ之ヲ司法裁出
ニ福シ更ニ以審出有ニ當初ノ罪狀
分明相成出上拒刑ノ免ニ其處
乃ニ其後其後其後其後其後其後
罪ノ實ヲ了解シ甘心シテ其罪ノ服
至リの中級ト在存即今此件ニ付

喋、辯論仕在、係々多望、後分、
當し然止ん能ハサルノミナラス上旨、依り
直チ之ヲ拒刑ニ擬スルニ至リ、
ヲ被ケ裁出ノ公石ヲ改セラレ、
之裁ト有也、殊ニ時ノ特權律文、
重ト人民、
ハ終ニ天下後世ノ公論モ有之、
御指令を仰也

明治六年十月廿日

参考

414
A.2726
4

そのあき

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈

京都裁判所にて於テ小野善助送籍之儀
裁判及ヒ京都府治安委員等之ヲ拒ミタルニ付
小島少輔事ヨリ情状具上シ又澄川換事ヨリ
上陳スル所アリテ本者ニ於テ其事件ヲ議
論シ決裁ヲ仰キタル事續々あり、通ハシテ
當時ニ考出仕以上ノ上ノ句ニ在テ議定スル所ハ
勇一己ノ辯ス可キ非ス勇其時ニ當テ間々與
聞シ一己ノ持論アリタルハ今日曾記スル所ヲ言
上ス凡ソ罪ヲ科スルハ成律ニ據ルハ勿論ナリ

司法官

一、正條ニ的例ナキモノナル論ヲ待タス又之ヲ科
スルニ順序ヲ強成規ニ據サル可カラス素ヨリ
罪案ハ口供或ハ口書ニヨリ踰路ヲ徵スルモノニシテ
其恐入ル等ヲ待ツ者ニ非ス之ヲ以テ直ニ罪ヲ
科ス然ルニ成規中ニモ其活用ヲ主トスルノ証ハ呵
責放免等ハ管以下ニシテ罪ノ部分ニハ在レ且
要スルニ無科ニ類似スル者ニテ輕微ノ者ナリ
然レ且其口供結案ヲ待ツ違式ハ管二十ヨリ一十
ニ止ル呵責ニ比スレハ稍重キ者ナリ然レ且必スシモ
口供結案ヲ待サル者アリ之レ成規中ノ活用ニシテ

裁判官ノ權衡ヲ執ル所也凡ソ違式ハ新律
中ニ正條ナク司法警察寮ヲ關轄シテ始テ
凶條トナリタルカ如シ抑違式ハ各地方ノ規則ニ
違戾スルヲ主トシ或ハ友ノ諸局ノ式ニ違フ者
之ニ權衡ヲ採ル故ニ各地方ニテ其式ヲ知ルト
知ラサルヲ問ハス違式ノ罪ヲ科スル勅奏任官
ト雖モ奏聞ヲ經ス平民タリ且口供結案ヲ採ル
トナク罰文ヲ用セス直ニ罪ヲ科ス裁判所ニテ
裁判ノ文書ヲ取り服セサレハ控告セシム之レ裁
判所ノ式ナリ京都府出立事此ノ式ニ違フ故

二道式ノ罪ニ科シテ權衡誤ラサル者ノ如シ然レ
正直ニ警保寮取扱ノ處分ニ微ヒ難シ故ニ特ニ
奏請スルノ議ヲ發セリ勇當時一己ノ卑意
示野善助送籍考、竹森都府ト裁判所
トノ事情天下ノ人喋々之ヲ談ス政体ノ美ト
謂可カラス道式ノ罪ヲ科スル百餘里ノ遠途ヲ
踰テ勅奏官ヲ呼出ス總當ト謂ハス又各人民
裁判ヲ受式ニ依ラス趣意ヲ解シ難キヲ以テ
裁判官ニ抗スルコトハ其多事言ヲ待ス
京都知事奉事は之ニ我意ヲ決リ推問スルモ

同様ノ手續タルト顯然タリ且權衡ヲ採ルモ
比例不可キ、成規アレハ京都府出立奉事ト北
富利事ト、數回は後書面ハ其手續分明
ニシテ口供ニ勝ル、罪案タリ之レ成規中ノ活用
ニシテ更ニ政府ノ裁判ヲ請フ所以也然レ是
勇當時一己ノ卑意討論ニタル所ヲ陳シ今
日閣下ニ言上スルモ、也閣下宜ク當時ノ情勢
諒察アラシコトヲ希望致シ也

明治六年十月八日
早川勇再拜
大木司法卿閣下

司法卿

別紙
年傳書

小野善助不務請之許江今年六月十日吾於
 京都裁判所及裁判所之被控人京都府出
 矢之子其書書之其美出其不控告之其為
 喋之論之枝蔓之流之徒之數旬之遷之為
 裁判所長山田少判事より其事情逐一本首
 一政具陳尚日所在勤澄川の権中格多し他公
 事ヲ兼務出京分派甲申ノ書七月三日及建
 白之付翌四日翌之其於議事堂大少丞以上
 在議此事ヲ討議之其首成ハ云一之彼ノ知

存乎ヲ紀簿ニテ然ル後罪ヲ科スヘシ又或ハ
云此事ヤ明ニ現行犯罪ナリ其事状裁断ニ
後復後ノ書面ニ於テ詳定ヤリ宜別ニ口供ヲ
待ニ且彼レ裁判法書ヲ不復出又控告ヲモ為
サハルノ罪連式の當ニシメ之ヲメ度人ナラシムハ
立トコロニ區處メ容スヘカラサル者ナリ獨ッ勘奏
官ニ係ルヲ以テ其罪跡ヲ舉上請スルニ罪ズンハ
其罪ヲ科スルヲ得ナルナリ又或ハ云此裁判マ
固ヨリ刑事ノ臆測ニ非ス一々公布ノ法則ニ
基ケル之ヲ非トメ照セサル者ハ罪連令ノ科メ

可ナラハト濶堂儀諮詢々トシテ一致ニ不歸ヲ
以テ同七日不取敢此事ヲ由テ上陳シ翌八日更ニ
別紙ニ印シ通テ同書中特ニ刑名ヲ舉テ又推
問センヲ陳シ而岐ヲ表シテ政進連ノ人得テ
何等ノ指令無ク付澄川檢事切迫ノ情ニ
傍ハ重執テ其意見ヲ上陳政ニ度々ニテ
九日午前房田伴政昇院ニ至テ白ハ内閣
官ニ面會ヲ不得付其言ヲおろス能ハス十日
再ニ昇院史官ニ面會其決裁ヲ相授シ十二日
至リ尚又昇院三條大臣殿及閣下史代前シ

参儀極位江高西公等一日所別席、面前、
於一切書局、持系前日、請、歎、末、
口陳、イ、タ、シ、會、福、言、ち、補、モ、亦、他、ノ、公、事、ヲ
以、リ、罪、院、禱、致、無、ク、身、回、宿、ヨリ、モ、左、石、床、ニ、
指、令、ニ、成、ル、様、更、ニ、差、迫、ラ、レ、左、邊、乃、テ、澄
川、換、子、建、言、ニ、致、リ、道、律、ニ、處、断、可、ク、出、立、口
達、者、ニ、付、其、建、言、ヲ、先、出、ト、シ、翌、日、十三、日、左
邊、律、取、調、付、ト、出、十八、日、取、上、請、ト、由、ト、
朱、書、ニ、付、決、裁、可、ク、成、ル、義、ト、由、ト、

甲

京都府下、小野善助外、人送籍、存、
三月、京都、幕、判、所、ヨリ、同、府、知、事、ニ、幕、判、申、渡、
書、ヲ、右、邊、ト、末、同、存、ヨリ、請、書、石、出、上、告、ヲ、モ
石、致、徒、ラ、ニ、贖、日、彌、久、ス、ル、段、石、都、方、ノ、所、方、ニ、
趣、同、所、出、立、控、事、向、控、部、ヨリ、申、渡、ト、別、立、件
書、類、熟、考、ト、モ、幕、判、申、渡、ス、ル、ハ、六月、十日、
之事、ニ、有、之、以、後、許、答、書、函、外、之、儀、備、ニ、押、シ、移、
敷、度、注、後、ニ、及、ヒ、モ、末、北、畠、少、判、事、ヨリ、控、案、之、
辨、難、ハ、姑、ク、異、ト、シ、不、致、ト、條、幕、判、ヨリ、石、出、上、告、
同、去、首

アテハ上告之儀ニ依テ執中ニ可然之外無他ト
申切リテ事有月廿三日之事ニ有之而シテ京都
府於為依然請書ヲモ不_レ出上告ヲモ為サレ
ル段実ニ石相濟出方ニ有之凡_レ請書出シ
テ其_レ請書ヲ受クルモノハ必_レ請書ヲ出シ
若シ_レ未_レ被セサルハ亦其_レ請書ヲ出上告
スルノ旨ヲ申出_ル式是_レニ出_ルナレ今ヤ
京都府有_ル此_レノ二ツノ法_ニ違_レリ違_レ式之_レ衆
是_レヲ判_スタルハ則_レ是_レノ違_レ式ノ衆一_レモ違
二四_レ同セザル_一ヲ得_ルナリ何_レトナレハ原告ノ者_ニ於

ケル_レ好_レ判_ヲ受_ルノ後十_レ數_口ヲ徃_ルト虽_レモ突
知_ラ得_ル_一能_ハス司法ノ裁判強_クト画_レ餅_ニ似
タリ其_レ權果_シテ焉_ニカ在_ル乎且_レヤ是_レ其_レ突
効_ヲ得_ルサル_ノミ_ナケ_テ十_レ數_口之_レ換_レ失_ル其_レ權利ノ妨
ケ_ラ受_ルクル_一亦_レ幾_許ゾヤ一方ノ是_レ式_ニ違_フ
ヨリシテ一方ノ換_レ害_ヲ而_レシテ司法ノ法裁判ノ
權_亦特_ニ立_ツ可_キノ道_ナカラ_ニトス是_レ一_レ日_モ
違_レ二四_レ同セズン_バアル_カカラ_ガル_所以_テ也_差ニ平民
ニシテ是_レノ事_{アラ}ン_字無_レ福_得ル_其實_ニラ_實
シテ可_ナリト_至モ_但是_レ知_ル事_一 勅_奏官_タ

ルヲ以テ長考請テ決スニハアル可ラザル而已候
此為奉旨上テ案早速決執
奏可也所處分有之ニ律法度也

京都在初臨時所用官印
出法

明治五年七月
司法權事務法元環

福海司法大輔殿

乙

京都裁判所於今同府下小野善助
送藉一件裁判言渡ニ付同裁判所
申達以趣リ同府廳ニ於テ申拒ニ係
昨日申進申事案於亦同裁判所
申越之比身モ有之申拒有之申達
之仍而適律取調多変送令送求當
以凡同府有之ク一應推問之且犯既確
不致有變事柄勅奏有之海リ有之
吃申伺多也

司法省

三河省

明治六年七月八日 司法大輔福國孝芳
三條太政大臣殿